

風船スイッチの製作

1 相談内容

相談者は対象者を担当する施設のケアマネジャーです。「対象者がパソコンを使いたいと言っている。どのようにすればいいか、アドバイスしてほしい。」と相談がありました。訪問して身体状況の確認とスイッチ選定・適合を行うことにしました。

2 対象者プロフィール

50 代男性、身体障害者手帳 1 級、要介護 5 です。筋萎縮性側索硬化症 (ALS) です。動かせる部位にはかなりの制限があります。入所施設で生活しています。

3 対応

PPS スイッチ(パシフィックサプライ㈱)のピエゾセンサを左親指第 1 関節辺りへ貼付しましたが、感度を上げてても反応が思わしくありませんでした。そこでピエゾセンサを外し、参考文献をもとに試作した風船スイッチをつなぎました。こちらは左親指と左示指の間へスイッチを設置し、回内位で親指が上に来るよう手のひら側へタオルを壁にして手の位置を維持しました。



風船スイッチ設置の様子



スイッチ設置時の腕の位置や姿勢

4 結果

この風船スイッチを使うことでスイッチ感度は[3]でも容易に反応し、パソコンの操作やスキャンによる文字入力が可能となりました。後日、風船スイッチを製作してお渡しし、「これでパソコンが使えて、映画鑑賞や、ゲームもできるようになりますね。」と話しかけたところ、対象者に笑顔が見られました。

5 予算

600 円程度

参考文献 鈴木浩子：自作スイッチと意思伝達装置の活用 遊びから勉強まで～SMA の次女の場合～、月刊 難病と在宅ケア Vol.21 No. 11, pp36-40, 2016.